

第 1 回技術委員会（準備書第 1 回審議）での意見等及び事業者の見解

No.	区分	委員名	意見要旨	事業者の説明、見解等要旨
1	全般	塩田委員	<ul style="list-style-type: none"> 全ての環境項目で、評価結果の文言が「環境への影響の緩和に適合する」などの同じ記載になっているが、環境項目はそれぞれに特徴があるので、メリハリのある環境影響評価という観点で、分かり易く表現した方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価結果における「環境保全に関する目標との整合性」については、基準との比較が基本になりますので比較的同じような表現になりますが、「環境への影響の緩和に係る評価」については、事業者の環境保全措置等によって環境への影響を緩和、最小化しようとする努力を示す部分ですので、評価書において丁寧な説明に努めます。
2	大気質	鈴木委員	<ul style="list-style-type: none"> 煙突排ガスの 1 時間値の予測で、高濃度が出現する可能性がある条件として「大気安定度不安定時」とあるが、大気が不安定なときに高濃度になる理由を教えてください。 高濃度が出現する条件として「接地逆転層崩壊時」とあるが、準備書 4-1-38 ページの逆転層の区分で下層逆転が接地逆転層と同じだとすると、下層逆転の崩壊時を対象としているのはなぜか。煙突が 60m なので、80m～90m くらいで下層逆転が起こっているときにかなり濃度が高くなると思われる。 高濃度が出現する条件のうち「上層逆転層発生時」が、準備書 4-1-38 ページの下層逆転に相当するということか。 準備書 4-1-109 ページに、高濃度が出現しやすい条件として、不安定時、逆転層発生時、ダウンドラフト時とある。逆転層発生時とダウンドラフト時はいいが、不安定時には上空にどんどん汚染物質が流されていくので高濃度にはならないのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 大気安定度不安定時の予測については逆転層がない条件での予測であり、大気安定度が A の不安定時の条件で逆転層がないケースを設定しました。 準備書 4-1-38 ページの上層気象の調査では、100m の上下で上層逆転、下層逆転という判定をしていますが、影響の予測については、逆転層が有効煙突高さに達した時に、最も高い着地濃度が出る条件を複数パターンでシミュレーションしています。 有効煙突高さが $59m + \alpha$ という形になり、下層逆転か上層逆転の 100m より少し上くらいのところが、一番高い濃度が出る逆転層の発生時になります。 大気安定度が A の不安定時には拡散幅が広くなり、最大着地濃度が高くなる場合があり、厚生省のごみ焼却施設の環境影響評価マニュアル等でも同様な条件が示されています。 口頭では難しいので、別途資料を用意して説明させていただきます。 【事後回答】 ・大気安定度ごとの煙の拡散幅（イメージ）を別途資料（資料 1-1）で提示します。
3	大気質	鈴木委員	<ul style="list-style-type: none"> 準備書 4-1-37 ページに冬季の鉛直気温の調査結果があるが、その間の諏訪湖の結氷状況を教えてください。 準備書 4-1-33 ページの 2 月 16 日の天気概況に「西高東低の冬型の気圧配置」とあるが、移動性の高気圧がまさにかかるところなので、そのようには表現しないと思われる。 準備書 4-1-37 ページの冬季の鉛直気温の調査結果は、異なる気象条件を平均して示しているため逆転がほとんど起こらなくなるが、完全に高気圧に覆われている 2 月 17 日を図示すると、明らかに逆転が起こっていると思われる。 また、準備書 4-1-37 ページの上層の鉛直気温のグラフでは、少なくとも 24 時～朝 7 時 30 分までは明らかに逆転が起こっているが、準備書 4-1-55 ページの地上気温のグラフでは事業予定地の下層の湖面まで逆転が起こっていない。平均化しない特徴的な日の結果を併せて示せば、気温の逆転は起こっていないという表現にはならないと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 手元に資料がないので、別途説明させていただきます。 【事後回答】 ・气象台、御神渡り神事を行う八剣神社のヒアリング結果を別途資料（資料 1-2）で提示します。 評価書での表現を修正します。 個別の日のデータを整理して、お示しさせていただきます。 【事後回答】 ・別途資料（資料 1-3）で提示します。評価書での表現の仕方、グラフの整理の仕方については、委員のご指摘を踏まえ、修正していきたいと思えます。

No.	区分	委員名	意見要旨	事業者の説明、見解等要旨
4	水質	花里委員	<ul style="list-style-type: none"> ・準備書4-6-2ページの水質調査地点において、St.2は天竜川に流れ込んでいるのか。 ・湖では、例えばダイオキシン等の有害物質が湖底に堆積し、食物連鎖を閉じて大きな問題になることがある。そのため、特に諏訪湖に流れ込む河川は気をつけなくては行けないが、建設予定地に降った雨は、諏訪湖にかなり流れ込むのか。 ・施設とその周辺において雨が降った際に、ダイオキシンや重金属、環境ホルモン作用を持っているような物質が検出されると問題になる場合がある。今日の説明では、かなり負荷を低減しているのによいかと思うが、こういう問題が起きる可能性があるということを確認していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・St.2については、諏訪湖ではなく、天竜川に流れ込む水路になります。 ・建設予定地に降った雨水の流末は天竜川になります。 <p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘を踏まえ、焼却灰が周辺に散逸しないように留意する旨を、事業計画に追記します。（評価書対応）
5	土壌汚染	小澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・準備書4-7-6ページに土壌のダイオキシン類の調査結果が示されているが、現況で清掃工場がある区域（St.1～St.3）の数値について、環境基準あるいは調査指標値に比べると低い値であり問題はないが、全国的な環境調査の中では高い濃度になるので、やや高い数値という認識で、同族体、同位体を含めたデータを資料として提示した方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今は手元にありませんが、分析結果については次回お示しします。 <p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダイオキシン類の同族体パターンを参考として、由来分析を行った結果、改修前の煙突排ガスと過去に使用されたPCP（農薬）の複合要因ではないかと想定されます。ダイオキシン類の同族体パターンは別途資料（資料1-4）で提示します。
6	地形・地質	梅崎委員	<ul style="list-style-type: none"> ・準備書4-8-14ページに、地すべりについては現在十分に安定しており、施設からの雨水を適切に放流するので、この事業により地すべり等を起こすことはないかと予測結果を記載してあるが、安定していても降雨や地下水等により動くので、評価が不十分ではないか。 また、土石流についても、準備書4-8-7ページ 図4-8-4(2)では、当該施設よりも上部の斜面と沢地形との関連が分かりにくく、特に数年前に土石流災害等もあったので、当該地域における土石流の可能性について記載願いたい。 危険がある場所に施設を計画しているかどうか影響評価の大事な部分なので、評価した方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・準備書では当事業による影響という観点で評価していますが、周辺環境をどうとらえるかという観点も、評価書では追加する形で対応します。
7	地形・地質	梅崎委員	<ul style="list-style-type: none"> ・雨水に対しては対策が取られているということだが、施設で使用する水は地下水を使用するのか、上水を使用するのか。 ・雨水に加えて、上水の排出についても記載をしたらどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・使用する水は、地下水ではなくすべて上水を使用する予定です。 ・評価書での対応を検討します。
8	地形・地質	富樫委員	<ul style="list-style-type: none"> ・準備書4-8-4ページの地質構成表で、地層名の崖錐2について記事には地すべり土塊と考えられると記載してあるが、地すべり土塊と崖錐は成因や物性的に全く違うものであり、地すべり土塊であれば崩積土として区分すべきものである。 ・準備書4-8-7ページの地質断面図で、推定すべり面が3本あるが、基本的に推定すべり面の上にある地質体は崩積土とすべきであり、風化塩嶺層は地すべり土塊、あるいは崩積土として区分すべきである。また、一番上の推定すべり面について、すべり面であれば、地層境界がずれていなければおかしい。以上のことが論理的にきちんとなるように、地質構成表と地質断面図は大幅な修正が必要ではないか。 ・地質断面図に関しては、計画区域がどのあたりに入るのか合わせて示してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地質の調査については、別途実施された調査結果を引用していますので、この調査を行った機関に確認し、必要であれば修正する形で対応します。 <p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘を踏まえ、評価書にて修正します。また「地質構成と地すべりについての補足説明」を、別途資料（資料1-5）として提示します。 <p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地質構成表と地質断面図を評価書にて修正します。また「地質構成と地すべりについての補足説明」を、別途資料（資料1-5）として提示します。 <p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価書において、地質断面図に計画区域の位置（別途資料1-5参照）を示します。

No.	区分	委員名	意見要旨	事業者の説明、見解等要旨
9	地形・地質	富樫委員	<ul style="list-style-type: none"> ・準備書4-8-16ページの(4)予測結果の「掘削による土地の安定性の検討」において、掘削場所（ピット）及び深度等の計画条件は現段階で未定となっている。知事意見で「具体的な規模を把握した上で適切な予測評価を行うこと」としており、事業者の見解では「施設規模が決まったところで、具体的に地形改変への影響を予測・評価し、準備書に示す」とされているが、準備書においては現段階では未定ということで、具体性のない計画を4つ述べて、影響は軽微であるとされており、知事意見に対する見解と、準備書の記載に相違がある。現段階で計画が決定していなくても、例えば掘削の場所や掘削深度などを全く記載されていないのは不適切なので、対応を検討願いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今の段階では詳細は決まっていますが、想定できる範囲で検証を加えたいので、次回お示ししたいと思います。 【事後回答】 ・評価書において、予測の前提条件として想定される掘削の場所や掘削深度を示し、対策方法を加味したうえで定性的な予測・評価を行います。 ・なお、掘削深度はピット位置において最大（約15m）となると想定します。
10	植物	大窪委員	<ul style="list-style-type: none"> ・準備書4-9-6ページの植物群落について、代償植生が主ということだが、影響評価ということで、まとめとして自然性が低いのか高いのか、代償植生の中での位置づけなどを、植生の分布、各群落の調査結果に記載願いたい。 ・準備書4-9-29ページに希少種であるギンランに対する措置が記載されており、生育地は改変しないので影響がないとのことだが、里山の林床に生育するギンランなどの植物は、そのままにしておくとは絶えてしまう。何もしなければよいという種ではないので、その管理についても考慮願いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・植生の結果のまとめについては、委員の指摘のように追加させていただきます。 ・ギンランについては、林床管理ということで生育環境保全を行う必要があるため、その保全方法及び記載については検討させていただきます。
11	動物	中村寛志委員	<ul style="list-style-type: none"> ・準備書4-10-43ページで夜間照明の対応策について、ナトリウムランプ等を採用とあるが、最近の防虫用のエコイエロー、黄色防蛾灯というところまで考えているのか。 ・準備書4-10-45ページ表4-10-22の「適切な夜間照明の採用」における環境保全措置の種類が「低減」となっているが、夜間に光が漏れることを防ぎ影響を少なくするということであり、「最小化」ではないか。 ・準備書4-10-36ページで絶滅危惧種のマエモンシデムシがボックスライトで採集されているが、ベイトで採れなかったのか。また、資料編の8-52ページで、シデムシ科はオオヒラタシデムシ、マエモンシデムシの2種類だけだが、もう少し採れてもよいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最終的には事業者の判断となりますが、可能な限り昆虫の誘引が少ないランプの採用を検討するというので、今のところは示しています。 ・ご指摘のとおり、実施規模又は程度を制限すること等により影響を最小化する措置です。低減から最小化に修正します。 ・マエモンシデムシはボックスライトで確認をしました。また、シデムシ科は2種類のみ確認となっています。
12	動物	中村雅彦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・準備書の4-10-40ページの予測結果の動物相のところ、現地の地形等の状況が記載されているが、分かりにくいので説明してほしい。 ・動物相への騒音、振動の影響が少ないと予測しているが、根拠となるデータはあるのか。距離が離れているとか、斜面の陰になっているなどの状況から予測しているのか。 【亀山委員長】 ・この部分の文章は分かりにくいので、騒音、振動の項目での記載を引用するなどして、動物の項目にも記載したほうがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象事業実施区域は、東側はやや斜面を下って道路がある環境になっており、北から西側に関しましては、斜面をやや登った形で道路になります。南側に関しては、夏季のボブスレーコースが配置されています。 ・騒音、振動の項目で予測結果はお示ししていますが、建設工事中においては、建設作業騒音を防止するため工事用仮囲いを設置し、できるだけ影響を軽減します。供用時に関しましては、新施設で防音関係の措置がとられますので、現況を超える影響はないと考えています。 ・ご指摘を踏まえ、評価書ではもう少し丁寧に説明します。
13	動物	中村雅彦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・準備書4-10-45ページ環境保全措置で、低騒音・低振動型の機械を使うということで工法は記載されているが、工期の記載がない。猛禽類の環境保全対策として工期のことも入れないと、鳥の研究をしている人からはクレームがあると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・繁殖期でなおかつ巣が近接している場合は、十分注意が必要だと思っています。現段階では細かい施工計画が立てられておりませんが、事後調査計画として猛禽類に関して施工中のモニタリングにより繁殖状況を確認し、営巣地が近接した場合は、コンディショニングにするのか、それとも施工の中断を含めた判断が必要となるだろうと考えております。

No.	区分	委員名	意見要旨	事業者の説明、見解等要旨
14	動物	陸委員	<ul style="list-style-type: none"> ・準備書4-10-41ページのカモシカの影響予測で、対象事業区域内を工事中に利用しなくなるとの記載があるが、予測の根拠があれば教えてほしい。調査結果ではかなりカモシカが目撃されており、人慣れしているカモシカであれば工事中も利用し続ける可能性があるため、そうしたことを想定した対応、配慮も記載したほうがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な根拠はなく、一般的な状況として人や機械が動けば警戒して離れるだろうという記載です。人慣れして近づいてくるとなると別途対策が必要になるので、そうしたことを想定した記載を加えます。
15	生態系	中村寛志委員	<ul style="list-style-type: none"> ・準備書4-11-5ページの昆虫類指標種の選定で、捕食関係の上位の昆虫としてシダクロスズメバチを挙げていると思うが、オオヒラタシデムシはアーバンインディケーターとあって森林の割合を表す指標種になるので、このような指標種を選定する考えもある。 【追加意見】 ・昆虫類の指標種として、オオムラサキのほうが国蝶で一般によく知られているのでよいと思う。オオムラサキはいろいろな書物にも良好な環境の残っている里山の指標種として紹介されているので、検討願いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 【事後回答】 ・ご指摘を踏まえ、オオムラサキを指標種（典型種）とし、評価書で対応します。（「生態」と「分布及び生息・確認状況」の情報は、準備書4-10-35のとおり）
16	生態系	中村雅彦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・準備書4-11-3ページの生態系の模式図で、ニホンリスやムササビのような草食動物が二次消費者に含まれているので、一次消費者に訂正願いたい。また、アカネズミについても検討した方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ニホンリスやムササビが二次消費者ということはないので、記載を修正いたします。
17	景観	亀山委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・フォトモンタージュによる予測について、知事意見において「やまびこ公園が景観触れ合い活動の場という観点で重要な場所であることを考慮し、また工事中も囲い等により配慮すること」とあるが、事業者の見解として「なお、景観について、現施設の視認状況及び周辺施設の利用期間から、調査・予測はやまびこ公園のみで行い、簡略化項目で行う」というのは、知事意見への対応としては違うのではないかと感じる。 ・フォトモンタージュについて、準備書4-12-12ページの建屋形状を前提に実施されているが、具体的な設計がされてなくても、条件を変えてモンタージュを作成することは可能であり、景観については重要ということを知事意見で申し上げているので、十分に対応してほしい。また、実際に人が見るときは狭い視野で凝視するので、広角の写真ではなく、もう少し具体的に景観がイメージできるようなモンタージュを検討願いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状では施設の形状等が決まっていないのでこういった表現になっていますが、できる範囲で色や形状等を調整したものを、改めて提示させていただきます。 【事後回答】 ・外壁の色を変更したモンタージュを示したうえで、実際に人が見る視野を踏まえた評価を行います。（評価書対応）
18	触れ合い活動の場	野見山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・利用状況調査について、準備書4-13-1ページにどのような調査の内容を実施したのかについて記載願いたい。また、準備書4-13-4ページの調査結果について、パーセンテージだけでなく実数を記入した上で、定性的に丁寧に内容を記載したほうがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果について、もう少しデータに即した書き方に評価書の段階では改めます。
19	触れ合い活動の場	陸委員	<ul style="list-style-type: none"> ・準備書4-13-5ページの調査結果で、春期の男女の合計が100にならなかったり、年齢構成の合計が100にならないのは記載のミスか。 ・準備書4-13-5ページの調査結果で、有効回答数の割合が聞き取り調査にしては少ないが、実数が分かれば示していただきたい。また、有効回答数と少なくなった理由を加えていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数値については確認して、次回お示しします。 【事後回答】 ・正しい数値に修正した資料を、別途資料（資料1-6）で提示します。 ・有効回答数の数値は、パーセンテージではなくて実数になっています。
20	交通安全	野見山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・準備書4-16-1ページ交通安全において、調査範囲が県道楡川・岡谷線の対象事業区域から国道20号までの一部区間を対象にしているが、周辺には病院等の施設があるので、この区間に限定した理由を教えてください。 ・そうした根拠、数字を含めて調査範囲の選定理由について、評価書に記載していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・塩嶺病院がある国道は一般の交通量が非常に多い場所ですので、本事業に係る発生交通量の割合が高くなる、影響の大きい区間を調査範囲に選定させていただきました。 ・評価書に記載いたします。